（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390100735		
法人名	医療法人　山部会　くまもと成城病院		
事業所名	グループホーム響き		
所在地	熊本市北区室園町10ー67		
自己評価作成日	令和3年4月10日	評価結果市町村受理日	令和3年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	令和3年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様が地域で生き生きと暮らしていけるように努力している。令和2年は、新型コロナウィルスが流行して地域との交流ができていない。入居者様のADLやレベルの維持が難しくなってきている。レクリエーションの時には、上下肢体操、口腔体操、グループホーム内の廊下で歩行訓練などを取り入れて、入居者様の機能維持に努めている。コロナ禍ではあるが、入居者様のの好きな歌が歌える機会を増やしている。どのようにしたら入居者様が毎日楽しくくらしていけるのかを職員全員で考えてケアに取り組んでいる。食事では、寿司の日、麺の日、パンの日と行事食を準備し、楽しみを演出している。そうめん流し、敬老会、忘年会、新年会は、入居者様、スタッフで行いました。早くコロナが終息し、また地域の交流ができるようになることを願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人医療機関の敷地内に立つホームは、日々の健康管理やコロナ感染症への対策など、法人の指示やアドバイスを受けながら入居者の健康を支えている。管理者は「この一年は制限された活動が多かったが、この時だから現状を振り返る機会を持ちたい」としており、ケアマネジャーも、「昔取った杵柄を無理せず発揮してもらいたい」としており、今後の取組が期待される。外出の機会や家族の面会などもしばらくは制限をせざるを得ない現状にあるが、開所時に掲げられた“五感に響く”支援が入居者の満足や家族の安心・信頼にも繋がっていくと思われる。食後のお茶の湯飲みを口にされ「美味しかった～！」と発せられた男性入居者の一言は心に残る。今後も職員のアイディアや工夫でホーム内の生活を有意義なものになるよう努めていかれる事を期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名:グループホーム響き （東棟）

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲げて、毎日の申し送り時に理念を読み上げサービスに反映しているか確認しながら実践繋げている。	理念はユニット共有の玄関と西棟に掲示しており、毎朝の申し送りで読み合わせを行い業務についている。コロナ禍の中、入居者の入れ替わりや職員移動による体制の変化から、先ずは入居者に安心してホーム生活を送ってもらうことを優先しケアにあたっている。	理念は東棟や運営推進会議の会場である相談室へも掲示することで、職員の意識付けとし、推進会議の参加者への啓発に繋がることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会費を納めている。コロナ禍で地域の行事がありませんんでした。	ホームは開所当時から自治会に加入しており、会費の納入や回覧板のやり取りを行っている。地域行事の中止により、これまでの交流は中断されたが、「歩きたい」と希望される方には1対1でホーム周辺を歩いたり、受診時の外出や夕方のゴミ出しに同行してもらう等、出来る事で地域に出るようにしている。	今後は訴えのある方ばかりでなく、全員の方に1対1で散歩に出る機会を検討願いたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域に向けての発信ができていない。何かできることを考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今回は、できていない。	今年度の運営推進会議については開催に至っておらず、通常開催の代わりとなる書面審議（資料送付）なども行われていない。	コロナ禍により外部との接触が制限される時であり、新年度は是非書面審議にてホームの現状や入居者の様子を発信し、運営の透明性をはかっていただき、通常開催に向けたホームの姿勢に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ささえりあの職員と時々は、情報交換は行っている。	例年であれば地域包括の職員が運営推進会議に参加しており、ホームの現状を共有し、相談に応じてもらいながら友好な関係を築いている。介護相談員の来所も現在は中止されており、コロナ終息後の再開が待たれる。認定調査はこれまで通り実施し、職員が立ち会いながら入居者の状態を伝えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修を行い正しい知識をみにつけ実践できるよう取り組んでいる。玄関の施錠にかんしては、以前はかぞくのようぼうや安全面から考えて施錠していたが、現在は解錠している。	研修会ではホームでの事例をもとに話し合い、発生時の状況やその後の対応について評価検討している。日中の玄関はオープンにしているが前面の道路や駐車場、水路などへの危険性を考慮し、時間帯や状況によっては施錠を行っている。言葉使いについては気になるところがあるとして今後の課題としている。	身体拘束については（スピーチロックなどを含む）定期の研修会の必要性が求められる。また、車いす利用者の増加に伴い、テーブル席やソファへの移乗ににについても、入居者の意向を聞きながら検討される事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年2回の研修を行い、入居者の身体を常に確認し職員に聞き取りをすることで現状を把握している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の研修でせいねんこうけんせいどについてのちしきを学び必要なかたには、活用できるように準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ゆっくりとわかりやすく内容を説明し同意を得ている。不明な点があれば、その場で解決してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族会議は、開催できませんでした。家族に連絡する際、事業所に対する意見や要望を聞き、サービスに活かしていけるよう努力している。	家族会も今年度は中止されており、職員は“響き新聞”で月ごとに両ユニットの壁面飾りを紹介してホームの雰囲気を伝え、入居者の普段の様子を写真で発信しながら、家族に安心してもらうよう努めている。家族の意見は主に電話で聞き取っており、職員で共有している。	家族の意見や苦情については、ホームの契約書に則り、受付の体制や記録管理、申し出者に対する検討内容や解決の対応策について報告・話し合いの場が必要と思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議を行い、行事の企画や入居者の個別処遇を通して意見や提案を出している。	職員会議が開催できない月もあったようだが、ケアについては普段から話し合う機会を持っている。会議では業務改善や入居者へのケア向上に繋がる意見を出し合い、ホーム運営に反映させている。管理者は希望休への対応や資格取得を目指す職員の後押しをしながら、必要な意見を法人にあげるようにしている。	会議の内容は記録に残し職員で共有するとともに、年間資料として保存することが望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コミュニティー会議では、職員の意見を聞く機会を作り方しょくばかんきょうのかいぜんに努めている。。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には、できるだけおおくの職員がさんかできるようなシステムを作り職員各自が業務やけあに活かせる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、グループホーム連絡会に入会し横のつながりを持てるようにして、管理者や職員が情報交換や勉強会などに参加できるよう支援している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時のアセスメントでは、本人の話をよく聞き今後ホームでどのようして暮らしていきたいかを探る為、本人の真の声に耳を傾けて信頼関係が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事に耳を傾け不安や要望に応えられるような信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何が必要かをしっかりと把握しサービスの内容を検討している。グループホームの中だけでなくかぞくの協力体制や病院や外部ボランティアのかつようも検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は一緒に家事を行い、できないところは職員が手伝いながら共に過ごし支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、できるだけ面会に来てほしい。コロナ禍で、窓越しの面会、オンライン面会を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方との交流ができていない。スタッフが入居者と寄り添い関係を深めている。	今年度は地域行事が中止となり、外部との交流が絶たれたことで、ホーム内の関係性を深めるように努力している。正月や豆まき、ひな祭り、誕生会など季節ごとの行事や習わしを全員で楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように、常時声掛けして利用者同士がお互いに関わりが持てるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族と話したり、関係を断ち切らないよう努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを把握するために会話し、何に興味がありどのように暮らしたいのかを汲み取るよう努めている。	職員は入居者との普段のやり取りから思いを引き出すようにしている。表現が困難になられた方には、ホームでの暮らしぶりや家族の意向をもとに推察し、本人・本位となるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の会話の中から、生活歴や今まで暮らしてきた環境等を探り出していけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方は、それぞれに違うので本人の能力に応じたケアができるよう現状把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が一番本人の身近でケアを行っている為、それぞれの意見を出し合い家族の要望や訪問看護師の意見を取り入れて介護計画を作成している。	職員の担当制はとっておらず、全職員が日々の関わりから一人ひとりの入居者について必要な支援や気づきを提案している。ケアマネジャーは入居者の出来る事、出来ない事、性格やその人らしさを見つける事に仕事への意欲を感じているとしている。家族へのプラン説明時にも内容をわかりやすく伝えるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には、会話のひとつひとつを記録し本人がどんな思いでその言葉を発しているか検討してケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所は、本人とその家族を支えることを念頭に置き既存のサービスのみならず柔軟な支援が出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる慰問、ピアノの先生による音楽療法、併設の病院で行われるよう行事に参加し安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院をかかりつけ医にしている入居者が多く、受診時に家族に付き添って頂いている。精神面を含めた体調管理が図られている。	殆どの方が母体医療機関をかかり付け医として、必要に応じて受診を支援している。他の医療機関を希望される場合は、家族による支援が行われている。歯科については必要時に母体機関の歯科に出向いてる。主治医や訪問看護との連携を図り、むせなど食事状況についても支援方法についてアドバイスや指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職から異常があれば看護師に報告し、必要時には病院受診している。2ユニットで週4回、看護師が訪問している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の連携室とは、常に情報交換し入退院時は必要な情報が把握できるよう連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、重度化、終末期について説明している。終末期のケアについては、家族の協力を前提とし、その都度家族は主治医と十分に話をする様にしている。	入居時に重度化され継続した医療が必要となれば、母体医療機関での対応になることを説明し、了解を得ている。身体状況の変化などが生じれば、主治医を含め今後の方向性について話し合う機会を持っている。	今後も普段の関わりを大切にした支援に努めていかれる事を期待したい。また、母体医療機関は隣接しており、今後も最終を病院で迎えられる方には、可能な限り面会の機会をもたれ、家族も支えていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人の病院での勉強会や医師による救急法の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間を想定しての訓練を行っている。研修で協力体制の確認を行っている。	今年度は昼・夜を想定した火災訓練を実施している。災害備蓄は法人で管理しているが、ホーム内での周知には至っていない。安全管理の一つとしてチェック項目に沿って毎日実施している。	今後は自然災害についても風化させる事のないよう、振り返りや机上を含めた訓練の実施に期待したい。また、備蓄についてはホームでもリストの掲示や内容の確認が必要と思われる。安全チェックについては、定期的に項目の見直しを行うことで現状に即した点検が出来るものと思われる。取組に期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重し、声掛けや接し方に配慮している。入浴、排泄の声掛けには、プライバシーを損なわないよう対応している。	入居者への対応、特に排泄支援はプライバシーに配慮している。呼称は苗字や下の名など家族に確認している。身だしなみの支援としてこれまで訪問理容を支援していたが、現在は感染症対策として控えており、家族の了解を得て職員により行われている。	家族をはじめ外部の訪問者がないことから、接遇などについて職員間で忌憚のない意見交換が必要と思われる。職員自身が大切な環境として入居者の支援に努めていかれる事を期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人生の先輩として敬意を表し、入居者の思いや訴えを傾聴、受容することを心掛けている。傾聴する時は、居室で行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの要望を聞き、散歩、静かに過ごしたい、テレビ視聴など、個人のペースで活動できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、理容業者に来てもらい散髪、髪染めなどを行いおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、行事食など多彩なメニューがあり楽しみを持って食べることができるよう支援している。食器拭きや台拭きなど声掛けして手伝いをお願いしている。	食事は隣接する法人厨房で作られており、主食のご飯をホームで炊いている。食形態やテーブルの高さなど身体状況に応じて支援されており、職員は見守りや必要な介助に努めている。職員も同じものを摂っているが、現在は感染症への対応から時間をずらすなどしながら食事休憩を取っている。	職員も同じものを摂っており、入居者の代弁者として味や量、彩りなど気付きを厨房へあげる事も必要と思われる。また、食後のお茶を「美味しか～！」と発せられた入居者がおられた。新茶の季節を迎えることから、今後も入居者の喜ばれるお茶の提供を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録している。その人に応じたカロリーや減塩、糖尿食、嚥下移行食等に対応したメニューを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛けや誘導で歯磨きやうがい等を行い、口腔内の衛生を保つように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、定期的に声掛けしトイレ誘導、見守りを行い、個別に対応している。	日中は基本的にトイレでの排泄を支援し、個々に応じて声かけ・誘導を行っている。排泄の失敗をなくすことは本人の尊厳や家族の負担軽減にも繋がっている。日中はリハビリパンツが主であるが、オムツを使用される方もおられる。夜間のみポータブルトイレを使用される方やオムツに変わる方など現状や適切な支援方法を職員間で共有している。ポータブルトイレの掃除は、その都度や「音が気になる朝からして欲しい」など、希望に応じている。	トイレ内の臭気や便座の使用具合など、入居者の立場に立って検討することも事も良いと思われる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中は、なるべく体を動かし、おやつの時は薩摩芋、お茶をこまめに提供し便秘予防に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回入浴できるようにしている。（冬場は3日に1回）個人の希望も聞きながら支援している。	回数や時間など入居者の希望や体調などを考慮し、季節に応じ2日や3日置きに入浴支援をおこなっている。入浴を楽しみにされている方も多く、湯舟で歌ったり、「気持ちよかった～！」の言葉も聞かれるようである。身体状況からシャワー浴が中心の方もおられ、湯冷めなど無いように支援してる。	湯船での歌や「気持ちよかった～！」の一言など、入浴中のエピソードも、家族へ伝える事で安心に繋がると思われる。また、季節湯（菖蒲・柚子）を喜ばれる入居者もおられると思われ、全員が楽しめるよう数日にわたり支援されると良いと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネンは、定期的に洗濯や日干しするなどして安眠への支援をしている。また、眠れない方に対しては、話を傾聴して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表で、個人の服薬状況を把握し症状に変化がある時は、看護師を通して主治医への連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日洗濯物たたみ、食器拭き、台拭き、清掃など役割を持って手伝って頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には、近くの公園に出かけている。1年に1回は、家族の協力を得て遠出の日帰り旅行を行っている。	今年度は感染症や人員配置などの点から、外出支援への取組は難しかったようである。家族より桜の開花をラインで送られており、外出気分を味わってほしいとする思いが伝わってくる。	コロナ感染症により外出を控えている分、引き続き職員の工夫によりホーム内での楽しみ事を支援いただきたい。また、個別支援による散歩や日光浴などの取組に期待したい。ゴミ出しへの同行については継続が期待される。外出気分を少しでも味わえるようDVDや雑誌などを活用することも一案と思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事の際には、買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、壁飾りを入居者と共に作成し、季節を感じてもらえるように工夫している。リビングでは、室温の管理に気を付けている。	環境整備の一つとして壁面担当者を中心に、入居者も一緒に作品作りを行っている。リビング食堂は入居者の相性や身体状況に応じて席を決定している。感染症への対応から玄関での検温や手指消毒に加え、ホーム内も適宜換気や、消毒が行われている。以前活用されていた段上がりの畳の間も、今日では高齢化やADLの低下などから活用には至っていない。	段上がりの畳の間にはテレビが設置されていることから、入居者の目線も自ずとその方に向くために安全面も含めて整頓の必要があると思われる。取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子で過ごすことが好きな方やソファで居心地がいい方など、座席の配置など個人に合わせて配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込んでもらい馴染みの環境に近い状況で心地よく過ごせるように工夫している。	これまでの生活に近い環境を作ることで安心して過ごしてもらえるようにしている。居室にはクロゼットが備わっており、入りきれない衣類の収納には家族がプラスチックケースを持参されている。居室を迷われる方にはイラストを入れた表札が下げられている。家族の訪問を控えており、現在は職員が中心になって居室の管理を行っている。入居者の中には自立で室内の引き出しを整理される方もおられ、本人のプライバシーにも配慮しながら最小限の確認に努めている。	家族にとっては居室内の様子なども気がかりな点と思われ、不足な品などに加え、居室内の現状についても小まめな連絡により安心に繋げていただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには、好きな花や個人の名前を貼り自分の部屋がわかるようにしている。トイレやお風呂には、大きく書き貼付してわかるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に貼り、仕事に入る前に必ず読み上げ、理念に基づいたサービスの提供ができるよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月１回の公園清掃や、行事等に積極的に参加し、職員の顔を覚えて頂けるように心掛けている。地域行事への参加のお誘いも増え、交流が広がってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方たちが参加される、母体病院の健康講座を活用し、認知症に関する勉強会を行い、認知症に対する理解を深める機会に繋がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議では、ご家族からの意見をもとに施設の問題点や取り組みを話し合い、サービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ささえりあの職員さんとは運営推進会議で、情報の交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止の為、夜間にセンサーマットを使用している方もいらっしゃるが、日中は特変がない限り離床を促している。玄関は夜間以外は解錠し、スピーチロックを含め、身体拘束をしないケアを心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員に虐待に関する勉強会を行い、何が虐待に当たるかを職員が把握し、職員間でもチェック体制を整え、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修・勉強会にさんかし、いつでも対応できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくり丁寧に説明するよう心掛け、疑問点や不安ようそに対し、納得して頂けるような受け答えができるように心掛けている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にはご意見箱を設置し、めんかいに来られたご家族と話をする事により、不安や不満が解消するように努めている。また、年1回開催し、意見を運営に反映させるように取り組んでいる。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフ会議を行い、意見や提案を聞く機会を設け、より良い施設になるように職員間で話し合い、反映させる様に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は山部会のコミュニティ会議で職員の意見を聞き、職場環境の改善・整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の法人内外の研修を受ける機会が増えるよう、協力体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に入会し、他事業所との交流を図り、情報の共有やネットワークづくりの努力をし、サービスの質を向上していくように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の不安、生活をしていく上での不満や不安、要望を傾聴し、信頼関係が築ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望もしっかり聞き取れるような信頼関係を築き、安心して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何を必要とされているかを把握し、サービス内容を作成し、提供していくように努め、母体病院からの運動指導や外部ボランティアの活用にも取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は、共に楽しみながら一緒に生活できるよう、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との信頼関係は重要であるため、話し合いもしっかり行い、共にご本人を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所で生活されていた入居者様も多いため、行事等や散歩をすることによって、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、孤立せずに楽しみ、支えあいながら生活できるような支援に取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が退所することになられても、行事参加の案内等を連絡したり、入院生活を送られる様になられたら、面会に行き関係を断ち切らない様努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや要望に耳を傾け、どのように生活していきたいのかを把握し、本人の意向を尊重するケアができるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントや日々の会話の中で生活環境やこれまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントをしっかり行い、現在の心身状態や有する力を把握し、一日一日を快適に過ごしていただける様な支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月１回カンファレンスを行い、入居者様の課題を挙げ、より良いケアができる様話し合い、現状に即した介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は誰が読んでも分かるように記入することに努め、申し送りノートの活用により、職員間で情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的にご家族に対応して頂いている、病院への定期受診や緊急時の受診等にご家族の都合が合わない時には、職員で対応し柔軟な支援・サービスができる様、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方による歌や踊り、ご家族によるピアノ演奏や歌など楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族の意向で決められている。定期受診は基本ご家族に対応して頂き、緊急時は訪問看護師よりかかりつけ医へ連絡してもらい、迅速・適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に入居者様の健康状態を把握し、特変時や不安・相談があった時には、訪問看護師に連絡・相談し、受診や手当を受けられるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合、入退院時や途中経過の情報交換ができる様努めている。又、面会に行き、病院関係者に話を聞き関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は契約時に説明し了承を得ているが、その都度ご本人、ご家族と話し合いながら、要望に沿った支援ができる様取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事後発生時には、慌てることなく冷静に対応できる様、訓練や勉強会を行い実践力を身につける様努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や勉強会を行い、冷静に入居者様を避難誘導できる様努めている。母体病院、地域との協力体制も築けている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声掛けや接し方、入浴や排泄時等のプライバシーに配慮しながら対応するように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや訴えを傾聴、受容する事を常に心掛け、安心して生活していただける様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活や流れの中で、無理強いせず、声掛けや見守りをしながら、ご本人のペースで日々過ごして頂くよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容に来ていただき、散髪や紙染め、パーマ等要望に沿った身だしなみが出来るよう、支援している。男性入居者様には入浴時に髭剃りを提案している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回、イベント食を母体病院の栄養部が準備してくださる為、入居者様も楽しみにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の栄養部が摂取カロリーを計算し、献立を決め提供しているため、栄養バランスは確保できている。水分は自身で補給できにくい方は、毎食時と起床時、10時15時就寝時に補給して頂くよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしている。一人での口腔ケアが難しい入居者様には介助している。就寝時には義歯の洗浄を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人でトイレに行かれない入居者様には定期的に声掛けをし、排泄の失敗を減らしていけるよう誘導や見守りを行い、取り組んでいる。夜間は状況に応じてポータブルトイレを設置出来るようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しやすい入居者様には、排便チェックを行い、定期的な水分補給で牛乳やヨーグルトを摂っていただき、腸の働きが良くなるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は人員体制上、月～土曜の午後に行うよう決めているが、要望や必要性があれば職員が付き添い、常時行えるような支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が眠い時に寝て頂いている。寝具の洗濯や布団干しは定期的に行い清潔に保ち、空調管理をし、安眠できるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理ファイルを作成し活用している。受診後、薬が処方された場合は訪問看護師に連絡している。薬の説明書を読み、目的や用量、用法、副作用を理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や好きなこと、興味のあることを把握し、楽しく過ごしていただくよう支援している。ピアノを弾いたり、歌をうたわれたりと、気分転換ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や日帰り旅行、外出行事も積極的に行っている。買い物や散歩に行きたいと要望があれば、職員付き添いの元出かけられる様支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身でお金の管理ができる入居者様には、財布を管理して頂き、できない入居者様は事務所でお預かりしている。買い物の希望があれば、職員と一緒に買い物に出かけられるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様宛の手紙や電話は取次ぎ、電話を掛けたいと訴えがあれば、深夜でない限り連絡できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日掃除を行い整理整頓し、季節の壁紙を入居者様と一緒に制作し、飾っている。ゆっくりと落ち着ける空間づくりを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では落ち着いて過ごして頂く様努め、気が合わない入居者様同士は近くなりすぎない配置ができる様工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具や小物は、ご本人が使い慣れた物を持ち込んでもらい、居心地よく過ごしていただける様、工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、自身の居室がわかるよう工夫している。自身で居室へ行くのが難しい入居者様には職員が付き添い、案内できるよう努めている。		